左第5中手骨に発生した悪性リンパ腫の1例

産業医科大学整形外科

石原 秀一・鈴木 勝己
井原 成男・三浦 直彦
山上 繁雄

進整形外科

進 英文

Malignant Lymphoma of the Left Fifth Metacarpal Bone
A Case report

by

Shuichi Ishihara, Katsumi Suzuki, Nario Ihara,
Naohiko Miura and Shigeo YamakamiDepartment of Orthopaedic Surgery, School of medicine,
Univ of Occupational and Environmental Health, Japan

Hidefumi Shin

Shin clinic

Between 1972 and 1985, 127 patients with non-Hodgkin lymphoma of bone and soft tissue were evaluated and registered by National Cancer Center. In Japan, lymphomas of upper extremities are very uncommon. We reported a rare case of malignant lymphoma of the left 5th metacarpal bone. A 78-year-old male was admitted complaining of severe swelling over the left hand. The preoperative examination demonstrated only the diffuse, swelled, painful dorsal site of the left 5th metacarpal bone. No lymph nodes were palpated. Routine laboratory data were within normal values except ESR and IgA. The plain roentgenogram revealed osteolytic change in the whole 5th metacarpal bone. High uptake was observed on the lesion by ^{99m}Tc . scintigram. At operation, soft tissues were edematous and the lesion was found to have a lytic change. Frozen section suspected malignancy, and we immediately proceeded a wide resection. The curetted material showed diffuse pattern consisting of small, rounded lymphocytes and it was diagnosed as malignant lymphoma. Postoperatively chemotherapy was started to prevent local recurrence and distant metastasis. Lymphangiography of retroperitoneum, Ga. scintigram, and ^{99m}Tc . scintigram showed no abnormal changes.

はじめに

悪性リンパ腫はリンパ節以外の臓器にも原発することが知られている。

今回、われわれは左第5中手骨に発生した悪性リンパ腫を経験し、治療する機会を得たので、その経過および文献的考察などを報告する。

症例：H. H. 78才，男性。(8705075-3)。

主訴：左背尺側腫脹。

家族歴・既往歴：特記すべきことはない。

現病歴：昭和62年3月歩行中転倒し左手をついた。その後、左手背尺側の腫脹、疼痛出現。接骨院にて、鍼、電気治療を約1カ月間受けたが、軽快せず、近医受診。X線単純写真にて左第5中：骨の溶骨性変化を指摘され、昭和62年5月7日当科を紹介受診した。

入院時所見：発熱、貧血や表在リンパ節の腫脹、胸

腹部の異常はない。左第5中手骨背側部を中心に発赤、腫脹、び慢性に圧痛を認めた。

単純X線所見：左第5中手骨の骨幹部の骨皮質は膨隆、拡大、溶解像を呈していたが、骨膜反応はない。

入院時検査所見：赤沈の軽度亢進、IgAの軽度増加を認めたが、他に血液生化学、血清電解質、肝腎機能、総蛋白、CRPなどに異常はなかった。 ^{99m}Tc シンチグラムでは左第5中手骨に異常集積像を認めたが、他の部位には有意の集積は認められなかった。昭和62年5月25日病巣部の手術を行った。

術中所見：左第5中手骨骨幹部に手背より侵入、皮下組織は浮腫状に腫大していた。骨膜、骨皮質はほぼ完全に消失し、髓腔内には泥状の暗赤色の内容物が充満していた。迅速診断の結果、悪性腫瘍が疑われ、直ちに第3中手骨および尺骨頭を含む尺側列切断を行った。

図1 初診時単純X線写真
左第5中手骨の溶骨性変化を認めた

図2 組織標本所見
小型のリンパ球細胞がび慢性に見られる。

病理組織所見：HE染色で、腫瘍細胞は比較的小型の円型のリンパ球細胞からなり、また有糸核分裂も認

図3 術後単純X線写真
第3中手骨および尺骨頭を含む尺側列切断した

図4 非ホジキンリンパ腫の後発部位；数値は単発例のみを示す。

められた。以上の所見から悪性リンパ腫と診断した。

治療経過：術後経過観察中、温存した左手背部の腫脹、発赤が出現し、感染が疑われた。これに対して高圧酸素治療・有茎皮弁植皮術施行し、また局所の再発予防、全身の病巣の存在の可能性を考えてCVP (endoxan, vincristine, prednisolone) 療法を開始した。

考察：1972年から1983年までの全国骨腫瘍患者登録一覧表によると、非ホジキンリンパ腫は127例みられ、部位別にみると、上肢はまれで手指骨からの発生の報告はなかった。また、年齢別に見るとほぼ全年齢層に発生しており、男女比は1.5～2.5倍で男性に多く見られる。

1863年Virchowが、リンパ節にリンパ肉腫と呼ばれる一群の腫瘍が存在することを発表して以来、さまざまなリンパ節腫瘍が報告されてきた。造血組織増殖症の病態は、複雑で多彩のため、悪性リンパ腫の分類にも少なからず混乱があり、ホジキンリンパ腫は1966年にRyeの分類が国際分類として採用され世界的に用いられている。非ホジキンリンパ腫の分類に関しても、この数年間に各国のリンパ腫の専門家により続々と新分類が提案された。しかし最近になって、非ホジキンリンパ腫にも、Working Formulationと呼ばれる国際分類が採用されるに至った。本邦では我が国の悪性リンパ腫に適したものとして1978年悪性リンパ腫研究班の提唱したLSG分類が汎用されており、本症例もこの分類によると、diffuse Lymphoma small cell typeと分類される。

症例は現在外来通院にて化学療法を施行し、経過観察中である。術後約3カ月の時点で^{99m}Tc.シンチ、Ga.シンチおよび後腹膜のリンパ管造影を施行したが明らかな異常は認められなかった。

結 語

まれな中手骨原発の悪性リンパ腫の男性症例を治療し、若干の文献的考察を加えて報告した。

参 考 文 献

- 1) Boston, H. C. et al.: Malignant lymphoma (so-

called reticulum cell sarcoma) of bone. Cancer 34: 1131-1137, 1974.

- 2) Braustein, E. M.: Hodgkin Disease of Bone. Radiology 137: 643-646, December 1980.
- 3) 日比野進：造血器腫瘍。癌と化学療法社、東京、1979.
- 4) 北城・他：胸椎原発悪性リンパ腫の1剖検例。整形外科、32: 385-388, 1981.
- 5) 河北靖夫：現代内科学体系。血液臓器疾患、中山書店、東京、1964.
- 6) 小島・他：新分類による悪性リンパ腫アトラス。文光堂、東京、1981.
- 7) Mahoney, J. P. et al.: Primary histiocytic lymphoma of bone. American Journal of Surgical Pathology, 4: 149-161, 1980.
- 8) Mukadam, F. K. et al.: Radiology in primary reticulum cell sarcoma of bone. The Indian journal of cancer, June, 1975.
- 9) 日本整形外科学会骨軟部腫瘍委員会：全国骨腫瘍患者登録一覧表国立癌センター、1985.
- 10) Reimer, R. R. et al.: Lymphoma presenting in bone. Annals of internal medicine 87: 50-55, 1977.
- 11) Short, J. H. et al. Malignant lymphoma (reticulum cell sarcoma) of bone. The journal of the college of radiographers, Radiography.: 140-143, July, 1977.

質 問 長崎大学 平野 徹

悪性リンパ腫はもともと多中心性に発生することの多い腫瘍ですが、半年程度の経過観察で中手骨原発のものだと診断出来ますか。

中手骨初発例ということであれば問題ないと思いますが。

解 答 産業医科大学 石原 秀一

Ga.シンチグラム、^{99m}Tc.シンチグラム、リンパ管造影、消化管造影、全身骨X線など、全身の精査施行したが、明らかな腫瘍病変は認められなかったため、中手骨原発と考えた。

術後定期的に、Ga.シンチグラム、^{99m}Tc.シンチグラムなど経過観察中だが、今のところ再発などは認めていない。